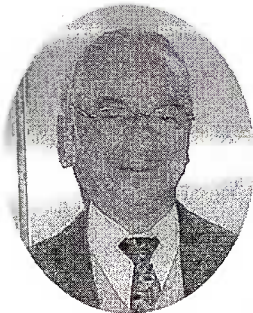


学生リーグ戦の思い出



工学院大学 空手道部

淀橋会 安井 通八

私は、昭和34年工学院大学空手道部卒の安井と申します。

根本大学OB連合会会長より、学生リーグ戦に関し思い出をとの依頼を受け、うすれていく記憶をひもときながら綴ることに致しました。

私が空手を志し、空手道部へ入部したのが昭和30年でした。当時の空手道部は、同好会から部に昇格したばかりで指導者もいない状況でした。この頃交流のあった法政大学空手部の青木先輩から「日本空手協会」の紹介を受け、四ツ谷の本部道場へ行き、入会と指導をお願いしました。

よちよち歩きの空手道部を最初に御指導を下さいました先生が、現在、日本空手協会 首席師範 杉浦初久二先生でした。

こうして日本空手協会との絆が始まり、現在に受け継がれてきております。

私共の年代の方々にとって日本空手協会四ツ谷道場は、忘れることができないのではないのでしょうか。

せまい道場ではありましたが、活気に満ちあふれていて、現在御高名の師範の方々、当時、研修生として活躍しておられ、私もよく四ツ谷道場へ行ったものでした。

私が学生の頃は、日本空手協会には試合がありませんでした。

杉浦師範の徹底した基本練習に明け暮れる毎日でしたが、昭和32年だと思いますが、日本空手協会として大学学生による対校組手試合が催され、初めて組手試合を経験し、無我夢中のうちに終わったことを思い出します。この試合が日本空手協会の学生リーグ戦の始まりではないのでしょうか。

基本練習が中心の稽古の中で初めてやった試合でしたが、基本練習で、ちゃんと試合はできました。

思えば、「学生リーグ戦」は、これを期に脈脈と続いていて、50年を越えた歴史を積み重ねてきていることに感激の念にひたる思いであります。

この長きに渡り、「学生リーグ戦」を運営し、支えて下さいました日本空手協会に感謝し、厚く御礼申し上げます。

大学OB連合会会員の一人として、日本空手協会に協力をしていかなければと更に念じている所であります。

学生リーグ戦の益々の発展を心より祈念申し上げます。